



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

6月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤尚子

楽しい触れ合いから学んだこと

副園長 本橋 房子

先日、東京都教育委員会の笑顔と学びの体験プロジェクトで、5歳児がゴールボールを体験しました。ほとんどの子どもたちにとって、ゴールボールは初めて出合う競技です。前日に、担任は『みえるとか みえないとか』という目が見えないことを題材に書かれた絵本を読み聞かせ、子どもたちに話をすると、「目が見えない人が、杖を持っているのを見たことある」「見えないってことは、耳でよく聞いているのかな」と自分が知っていることや考えたことをつぶやく姿が見られました。また、本物のボールを事前に触ることができ、その重さやスズの音がすることに驚いていました。そして担任が、明日、パラリンピックの選手が園に来てくれると伝えると、会えることをとても楽しみにしていました。

当日は東京パラリンピックのゴールボール日本代表の川嶋選手、佐野選手、宮食選手に来園いただき、ゴールボールという競技や、目の不自由な人は、ぼやけて見えたり、視野が狭かったりといろいろな見え方があることを教えていただきました。そして、目隠し（アイシェード）をして、ボールを投げたり、受け止めたりと実演してくださり、子どもたちは、スズの音が聞こえるように静かにしながら、選手の姿を「すごいなあ」という表情で真剣に見ていました。

その後、子どもたちはアイシェードを付けて何も見えない体験や、一人ずつ選手の投げるボールを実際に受けたり、投げ返したりするゴールボールの体験をしました。自分の順番をわくわくしながら待つ子もいれば、少し緊張している子もいましたが、選手の方が優しく教えてくださり、子どもたちは自分の動きを褒めてもらえてとても嬉しそうでした。自分が実際にしてみることで見えない状態でボールを取る難しさやおもしろさを感じていました。最後の挨拶では、「もっとやりたい!」「楽しかった」と笑顔で選手たちに言う姿が見られました。

体験を終えて保育室に戻った子どもたちからは、「ゴールボール、またやりたいね」という声や選手に目の不自由な人への関わり方を教えていただいたので、「目が見えない人には声を掛けたらいいね」という声も聞こえました。選手たちとの触れ合いは、目が見えない人の存在を身近なこととして考えるきっかけになったと思います。そして、今後ゴールボールを見たり聞いたりしたときに、「楽しかった」という思いと共に選手の素晴らしさや視覚障害について教えてもらったことも思い出さずことでしょう。

幼児期から世の中にはいろいろな人がいると知ることは、価値観の多様化につながります。人はそれぞれに「得意なこと」「苦手なこと」があります。また、「誰かのためにできること」もあります。自分のよさ、周りの人のよさを感じながら様々な人と関わることができるよう、幼児一人一人の素直な思いを大切にしながら援助していきたいと思えます。

— 今月の指導のめあて —

- < 3歳児 >
 - ・ 保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
 - ・ 園で必要な着替えや所持品の始末の仕方が分かり、自分でする。
 - ・ 梅雨時の雨の様子や、育てている植物や野菜に興味をもち、見たり触れたりして楽しむ。
- < 4歳児 >
 - ・ 自分の好きな遊びをする中で、自分なりの動きや言葉で思いを表そうとする。
 - ・ 保育者や友達に親しみや関心をもって関わり、同じ場で遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 色水や水を使った砂遊びなどの様々な水遊びをする中で、水に触れる心地よさや面白さを感じる。
- < 5歳児 >
 - ・ 自分の思いやイメージをもち、実現に向けて、考えたことを試したり工夫したりすることを楽しむ。
 - ・ 相手の話をよく聞き、友達に自分の思いやイメージを伝えながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 身近な生き物や野菜の生長などに興味や関心をもち、親しみをもって世話をしたり発見を楽しんだりする。

